

随筆を主体的に読む —書かれていることを根拠に推測する—

- 1 科目名 現代文B
 2 単元名 ユーモアと心のゆとり
 3 教材名 随筆「空飛ぶ魔法のほうき」 あわやのぶこ
 4 単元の内容

目標
と評価規準
・評価方法

① 単元の目標

- ア 教材文に興味をもち、そのおもしろさを読み取ろうとしている。
(関心・意欲・態度)
- イ 登場人物の言葉に込められた気持ちを読み取ったり、表情から心情を読み取ったりする。(読む能力)
- ウ 登場人物の心情について、話し合いを通じて自分の考えを明確にしている。
(読む能力)
- エ 特色ある表現を理解することができる。(知識・理解)

② 中心となる活動

- ・「イマジナリーな世界を広げ」た、「金物屋のおじさん」の台詞を想像する。
- ・「金物屋のおじさん」の台詞をグループで話し合い、ロールプレイで発表する。
- ・娘の思いを大切に「イマジナリーな世界を広げ」ようとしている「私(母親)」の思いを理解し、「娘」への声かけの内容を想像する。

③ 言語活動の工夫

- ・「金物屋のおじさん」の台詞を伏せ、文脈から想像させる。
- ・グループやペアで話し合いや確認、評価を行う。
- ・登場人物の心情を理解した上で、話の続きを考える。

④ 評価

	評価規準	評価方法	状況Cの生徒への対応
関心 ・ 意欲 ・ 態度	①本文の読み取りや話し合いに意欲的に取り組んでいる。	机間指導 観察 グループごとの発表	・課題を明確にして取り組むべき事柄をはっきりさせる。
読む 能力	①娘の表情と「イマジナリーな世界を広げて見せた」を根拠にして、「金物屋のおじさん」の台詞を想像している。 ②「私」が娘の思いを大切に、「イマジナリーな世界を広げ」ようとしていることを理解している。 ③話し合いを通じて、登場人物の心情や行動について自分の考えを明確にしている。	机間指導 観察 グループごとの発表 ノート	・生徒相互で確認させたり、表情から心情を想像させたりするなど適宜ヒントを与える。 ・考える内容を絞るなど、できるだけ具体的に指示をする。 ・グループのメンバーの考えに対して、感想を述べながら自分の考えをまとめるように指示する。
話す ・ 聞く 能力	①自分の考えを明確にしながら話し合いをしている	机間指導 観察	・自分の考えが明確に話せない状態であっても、他の者の考えに対して賛否や付け加えなどをしながら考えをまとめるよう指示する。
知識 ・ 理解	①比喩表現などの特色ある表現や重要語句の意味を理解している。	ワークシートの点検	・生徒相互で確認させたり、本文中のどこに書いてあるかなど適宜ヒントを与えるなどする。

5 単元の学習概要

時間	各時間の目標	主な学習活動の流れと指導上の留意点	評価規準 ↓ 評価方法	状況Cの生徒への対応 ↓ 次時に注意すること
1	○登場人物の表情や文脈を根拠に、空欄部分の台詞を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・「ウチのは良く飛ぶからなあ。」の部分空欄にしたプリントを用意し、グループで話し合いながら、この空欄部分に当てはまる語句を考える。【ア、イ、ウ】 留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・直後の娘の表情「娘の顔が突然春を迎えた花のように、パッと大きく輝いた。」、文末の「金物屋のおじさんは、一瞬のうちに静かに、子どものイマジナリーな世界を広げて見せたのだった。」を根拠にして考える。 	本文の読み取りや話し合いに意欲的に取り組んでいる。 【関、話】 ↓ 机間指導 本文を根拠にして台詞を想像している。 【読①】 ↓ 机間指導 発表・取組の観察	生徒相互で確認させたり、表情から心情を想像させたりするなど適宜ヒントを与える。 ↓ 本文の内容を根拠にして台詞を想像できているか確認する。
2 本時	○母親である「私」の娘への思いを理解する。 ○「私」の娘への思いを根拠にして、本文の続きを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートで前時の内容や重要語句の意味などを確認したりする。【イ、エ】 ・「小さな町の金物屋」を探したことから、「私」が娘の思いを大切にしていることを理解する【イ】 ・グループで話し合いながら、「飛べない」と訴えてくる娘への「私」の対応を想像して発表する。【ア、イ、ウ】 	「私」の娘の思いを大切に、「イマジナリーな世界を広げ」ようとしていることに気づいている。 【読②】 ↓ 机間指導 発表・取組の観察 話し合いを通じて、登場人物の心情や行動について自分の考えを明確にしている。 【関、読③、話】 ↓ 机間指導 取組の観察	「金物屋」と「大型店」を比較するなど適宜ヒントを与える。 ↓ 本文の内容を根拠にして台詞を想像できているか確認する。 グループのメンバーの考えに対して賛否や付け加えなどをしながら自分の考えをまとめるように指示する。 ↓ 机間指導で、自分の考えをまとめられているか確認する。